

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	おかえりホームきゅら海		
○保護者評価実施期間	8年 4月 1日		8年 4月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	8年 4月 10日		8年 4月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8 (回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	8年 4月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育のスペースを十分に確保しており、かつ安全・清潔に保たれている。利用児童の活動が制限されずにのびのびと行うことができる。施設敷地内に駐車スペースが十分にある駐車場を持ち、送迎時の安全確保が保たれている。	室内はバリアフリーになっており、車いすの児童も安心して利用できるようにしている。また静養室や学習部屋も設け、利用児個々の状態に応じて支援ができるようにしている。	利用時児童がより楽しく安全に過ごせるように、遊具、外遊び施設の選定を今後も行っていく。
2	子供たちに寄り添った支援を行い、子供たちが安心感を感じながら楽しく通所できている。保護者からもそのような評価を頂いている。	プログラムが固定しないようにし、個々の児童に適した支援を行っている。室内での創作活動やレクリエーション、室外での公園や外部施設へのお出かけなどと、固定的な活動にならないようにしている。	「ゆびまるこ」の創作活動を通して、作品発表会への展示に取り組み。「療育ヨガ」を取り入れて心の発達、身体の使い方の上達を目指す。保護者も参加できるイベントの実施を行っていく。
3	保護者に対して、日々の様子や支援内容について丁寧でわかりやすい説明を心掛けている。連絡帳や送迎時の対話で、情報伝達・共有、意思疎通を積極的に行っている。	経験豊富な職員が在籍しており、送迎時に丁寧に報告するだけでなく、インスタグラムの動画配信を活用し利用児の過ごしている様子を把握しやすいようにしている。	職員間で情報共有の仕方、伝達内容の統一を図り、だれが対応しても一定水準の説明ができるようにしていく。利用時に効果的であった遊び、学びの情報を家族と共有し、家庭でも活かせてもらえるように働きかけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が十分に提供されていない。	放課後児童クラブや児童館への移動と時間を設定する事が難しい。	「こども食堂」や「図書館」の利用で児童館との交流はできてきている。今後も希望者を募り、本デイサービス利用組と他施設児童との交流など、対応できる体制、機会を作っていく。
2	現時点では、父母の会の活動支援や保護者会の開催による保護者同士の交流機会の提供が十分に実施できていない。	保護者同士の情報提供や交流の機会の必要性を認識しているが、保護者の勤務時間や利用児の利用日、利用時間の違う中での交流会の設定が難しい。	保護者の負担を配慮しつつ、交流機会のあり方について検討を進める。夏祭りや関連企業のお花見会を開催しており、そちらへの招待を兼ねてなど、交流できる場を設定していく。
3	外部研修への参加機会について、業務体制、人員配置の都合により、受講できる職員に偏りが生じている。	勤務時間、シフト体制の都合により、外部研修への参加調整が難しく、結果として受講できないメンバーが出ている。	年間研修計画に沿って参加できるよう、人員配置、シフト調整を行う。研修実施企業からのオンライン受講を開始し、受講率は上がったので、今後もより多くの職員が参加できるようにしていく。